

提 言 書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2018ー」

平成 30 年 6 月 30 日、7 月 1 日に市民 21 人の参加を得て、市民討議会を実施しました。討議された意見を下記のとおり提言いたします。

大テーマ：住みやすいまち たじみ

中テーマ：超高齢化社会を迎えた今、私たちは何ができるのか？

討議テーマ 1：

介護について考える「きっかけ」作りのために、どんな仕組みが必要ですか？

- ・介護に触れる機会の創出を求めます。

介護を学び、体験するために、多治見まつりで介護ブースを出したり、学校で介護教育を行うことを求めます。また、コンビニなど人の集まる場所で、介護制度の情報に触れることが出来る工夫を求めます。

- ・介護ポイント制度の導入を求めます。

介護に関わるボランティア活動に参加することで取得でき、介護を受ける時に利用したり、介護用品に交換できる介護ポイント制度の導入を求めます。

討議テーマ 2：

元気な高齢者になるために、どんな仕組みが必要ですか？

- ・健康マップの作成を求めます。

既存の「ウォーキングコース 100 選マップ」に加え、車椅子や杖でも参加できるコースの記載や、バリアフリーのトイレが表示されたマップの作成を求めます。

- ・食を学び、体験できる機会の創出を求めます。

生活習慣病などを予防するために、子どもから高齢者までが一緒に健康と食を学び、体験できる機会の創出を求めます。

討議テーマ 3：

高齢者が子どもを持つ親を支援できるようにするために、どんな仕組みが必要ですか？

- ・子どもを持つ親の悩みとそれを解決できる高齢者をつなぐ仕組みを求めます。

子育てで悩みや困りごとを抱えるすべての人が、気軽に相談できる機会の創出を求めます。

町内会や民生委員への働きかけ、回覧板・チラシの配布などで支援できる高齢者と親をつなぐ仕組みを求めます。

討議テーマ 4：

高齢者の知見と経験を次の世代に引き継ぐために、どんな仕組みが必要ですか？

- ・必要としている人とされている人とをマッチングする仕組みを求めます。

知識や技術を持っている高齢者と、それを必要とする個人や企業とつなぐこと、経験や歴史を講演会やカルチャースクールなどで多治見市の財産として残すことが必要です。そのために、65 歳以上にアンケートを取り、技術や体験などを集約してマッチングする仕組みを求めます。

平成 30 年 9 月 27 日

たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 後藤美貴